

特集

災害に備える

地域の特徴を知り、先手先手の行動を



激しく雨が降る中、通行を急ぐ市民= 2021年8月17日、佐賀市天神 写真提供: 佐賀新聞社

地 球規模で異常気象が続き、災害の危険性が増しています。私たちが暮らす佐賀も例外ではなく、かつて「数十年に一度」といわれた大雨が毎年のように襲ってきており、「もはやこれが日常だ」と腹をくくるしかない状況です。命を守り、被害を最小限に抑えるため、私たちはどう備えればいいのか。自治体や関係機関の防災・減災に向けた取り組みを踏まえ、梅雨期のいまますべきことについて考えてみました。



冠水した道路で、水しぶきをあげながら進む車= 2021年8月14日、佐賀市の城内通り



大雨で膝下まで冠水した佐賀市の歓楽街= 2021年8月14日、佐賀市愛敬町

ひとたび降れば…

まず自覚すべきことは、「きつと大丈夫」「大事には至らない」といった安易な予測は全く通用しないということです。佐賀県には2018年から4年連続で大雨特別警報が出され、記録的大雨で19年、21年と甚大な被害が相次ぎました。「気温が高ければ高いほど、上空の気圧はより多くの水蒸気を含めるようになり、雨は若干降りにくくなりますが、たまりにたまってひとたび降り始めると、猛烈な雨になります」。佐賀地方気象台で気象情報官を務める高平憲一さんは、地球温暖化の現状を踏まえ、夏場の降雨の特徴をこう表現します。気象庁はこの6月から、短時間で集中的な豪雨をもたらす線状降水帯が発生する恐れがある場合、気象情報の中で予測を伝える取り組みを新たにスタートさせています。

最低3日分の「市民備蓄」を

それでは、それぞれの家庭でどんな準備をすることが必要でしょうか。「自分の暮らしている地域に土砂災害の危険性があるのかないのか、浸水の恐れはどの程度なのか…」まずは地域の特徴を知ることが大事です」と高平さん。そのためには、市町が作成・公開しているハザードマップが便利です。避難所まで安全に行くことができるのか、実際に歩いて避難ルートを確認する「防災さんぽ」など先手先手の行動が望まれます。浸水被害で日常生活が脅かされることも想定しなければなりません。佐賀市危機管理防災課は、最低3日分の食料・飲料水、生活必需品などの備蓄を各家庭で行う「市民備蓄」を推奨しています。普段使っている食品を多めにストックし、使いながらもしものときに備える「ローリングストック」を心掛けてほしいと呼び掛けています。



佐賀市のハザードマップはこちらから

食料・飲料水



- POINT!**
- ローリングストック(下を参照)を行えるもの
 - そのまま食べられるか、水や湯を足す程度の調理のもの
 - 持ち運びに便利なもの
 - 必要最小限のエネルギーや栄養素が確保できるもの

※あくまで一例です。必要に応じて、掲載している以外のものも用意しておきましょう。

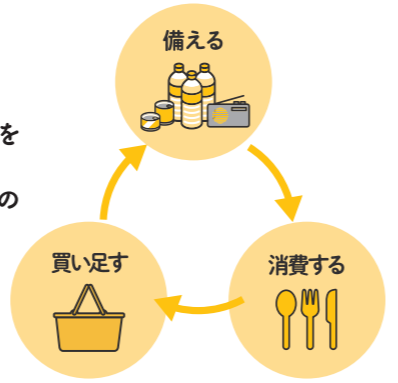
生活必需品



- POINT!**
- いつも使用しているもの
 - すぐに持ち出せる場所に保管しておく

毎日の食事が非常食に ローリングストック って?

普段使っている食品を多めにストックして使いながら、もしものときに備えるというかしこいやりくりの方法です。



調整池新設や 水路改修も

03

佐賀市のハード面の取り組みは、このほかにもあります。上流域となる佐賀市大和町にはこの2月、「尼寺第2雨水調整池」(貯留容量3万3千ト)の整備が完了しました。市中心部の排水対策では新村愛敬雨水幹線(大財)の改修が終了。こちらは、水を流す能力が従来比で最大約14倍になり、JR佐賀駅周辺の浸水被害軽減が見込まれます。



2月に完成した尼寺第2雨水調整池



事前排水の運用を始める佐賀城公園のお堀。市中心部の浸水被害軽減が期待される

佐賀城公園のお堀に貯水
市中心部の内水氾濫防止の一助になりそうなのは、佐賀城公園のお堀の有効活用です。週間予報などで大雨が予想される場合、お堀の水を事前に抜いて水位を下げ、貯留容量をアップさせます。国土交通省出身の坂井英隆市長がお堀の管理者である県に協力を求めて積極的に推進。市河川砂防課は昨年度から試験を重ね、実施に向けた手ごたえを得ています。お堀の面積は、西堀と南堀、東堀で計9万1300平方メートル。あらかじめ水位を10センチ下げると9130立方メートルの貯留容量につながるとみられています。

02

佐賀市の浸水対策

01

田んぼダム

河川の水位上昇を緩和させる手法として、新聞などで最近よく取り上げられているのは「田んぼダム」です。農家の協力を受け、降った雨をいったん田んぼに貯留し、緩やかに下流域に流してもらおうというものです。具体策としては、田んぼの排水口にV字形の切り口を開けた「せき板」を設置してもらいます。県と市町が連携し、本年度は武雄市や神埼市を含め、県全体で約1200箇所を確保。うち佐賀市では、佐賀江川の上流に位置する兵庫、巨勢地区の農家の協力を得て約180箇所を実施区域とし、市農村環境課は最大18万立方メートルの一時貯水につながると考えています。

協力農家に配布している「せき板」。雨を緩やかに流すため、V字型の切り口が開けられている



北川副小体育館に避難し、設置された簡易テントで過ごす地域住民ら = 2021年8月14日、佐賀市



床の汚れを洗い流す飲食店の従業員 = 2021年8月15日、佐賀市白鳥



田んぼダムにせき板を設置する山口祥義知事(右)ら。本年度は県全体で約1,200箇所を確保している = 6月10日、武雄市

災害時緊急情報配信サービス

さがん電話・さがんFAX

75歳以上の高齢者のみ世帯や障害のある方、携帯電話やスマートフォンをお持ちでない世帯に対して、自動音声による電話またはFAXで緊急情報を配信します。

- サービス内容** さがん電話 機械音声の電話で緊急情報を配信、聞き直しも可能
- さがんFAX** ファックスで緊急情報を配信

- 対象者**
 - 75歳以上の高齢者のみの世帯の方
 - 障害者手帳等を所持する障がい者等
 - 携帯電話、スマートフォンを持たない世帯の方 など



ホームページはこちら

配信情報 ①利用者の居住地域に発令した避難情報 ②その他の緊急情報 (自主避難所の開放含む)

利用料 無料

登録方法 利用申込書に必要事項を記入の上、危機管理防災課に提出
※郵送、FAX、メールでの提出、代理の方による記入・提出も可能です。
※申込書は佐賀市ホームページのほか、危機管理防災課、各支所の窓口等で配布しています。

